

防災ニュース No.1

野路自主防災組織事務局
発行責任者 福井太加雄

「安全と安心のある街づくり」をめざして

野路町で昨年11月から 大震災の発生に備え「自分たちの地域は自分たちで守る」ことが求められています。阪神・淡路大震災の際にも、救出された方の8割が家庭や地域の力によるものでした。

「減災」の視点に備え「災害時たすけあいネットワーク」登録制度を創設し登録を願っています。

登録の申請状況は（平成20年3月末現在）537世帯（71.9%）の方々から申請され、うち要援護世帯は136世帯でした。

今後の取組みは

- 要援護者に対し「町・民生児童委員・社会福祉協議会・町づくり委員」で訪問活動を行い、活動に生かして行きたい
- 要援護者は「湖南消防福祉ネットサービス」と2月7日に連携させました
- 自主防災組織の活動を通じて
 - ・ 防災講座を年3回予定しています
次回は6月20日に実施します
 - ・ 避難訓練を11月30日に実施します
 - ・ 防災ニュースを年間数回発行し申請された家庭に配布します
- ◎ 防災ニュースとして当分の間は「わが町の地震対策」（保存版）を発行しますので今後の対策として活用して下さい

大地震から身を守る10か条

1 まずわが身の安全を図れ

なによりも大切なのは命。地震が起きたら、まず第一に身の安全を確保する。



2 すばやく火の始末あわてず、さわがず冷静に

「火を消せ！」とみんなで声をかけ合い、調理器具や暖房器具などの火を確実に消す。



3 非常脱出口を確認する

とくに鉄筋コンクリートの建物内にいるときは、閉めたままだと建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがある。



4 火が出たらまず消火を

「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め初期消火に努める。



5 外へ逃げるときはあわてずに

外に逃げるときは、瓦やガラスなどの落下物に注意し、落ち着いた行動を。



6 狭い路地、塀ぎわ、がけや川べりに近寄らない

ブロック塀・門柱・自動販売機などは倒れやすいので要注意。



7 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意する

山間部や海岸地帯で地震を感じたら、早めの避難体制を。



8 避難は徒歩で、荷物は最小限にする

指定された避難場所に徒歩で避難を。車やオートバイは使わない。



9 みんなが協力し合って応急救護

お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合う。



10 正しい情報をつかみ、余震を恐れるな

うわさやデマに振り回されない。ラジオやテレビで正しい情報を。

